

## 防災意識の高揚

### ～顕著な大雨に関する気象情報について～

気象庁では、令和3年6月から線状降水帯が発生し、大雨による災害発生の危険度が急激に高まっていることをいち早く知らせる「顕著な大雨に関する気象情報」を発表しています。

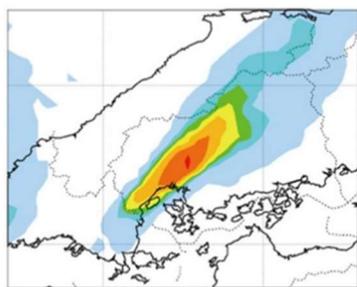
#### 【線状降水帯とは】

次々と発生した積乱雲により、線状の降水帯が数時間にわたってほぼ同じ場所に停滞することで、大雨をもたらすもので、線状降水帯が発生すると、災害の危険性が高くなります。

(過去の災害事例)

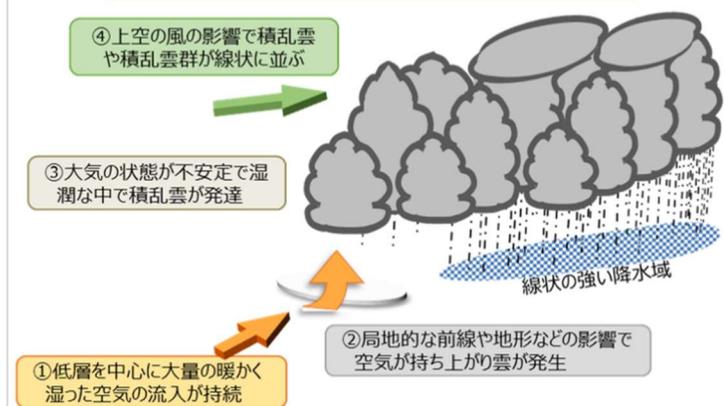
平成26年8月豪雨	平成27年9月関東・東北豪雨	平成29年7月九州北部豪雨
平成30年7月豪雨	令和2年7月豪雨	

線状降水帯の例(平成26年8月の広島県の大雨)



気象庁の解析雨量から作成した、平成26年8月20日4時の前3時間積算降水量の分布

線状降水帯の代表的な発生メカニズムの模式図



顕著な大雨に関する気象情報は、大雨による災害の危険性が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報で、警戒レベル相当情報を補足する情報です。警戒レベル4相当以上の状況で発表します。



#### 【線状降水帯の予測情報が提供されたら・・・】

**大雨による災害発生の危険度が高まっていることを認識し、心構えを一段高めましょう！！**

- ご自身や家族の安全確保が第一です。
- 普段から避難に備えて、食料や着替えなどを準備しておきましょう。
- ハザードマップや避難情報、避難経路を確認しておきましょう。
- 最新の気象情報に常に注意を払いましょう。